

「正しい」を固定化せず、その瞬間での最適解を更新し続ける

病院事務職員 大学院非常勤講師 須藤夏樹

藤沢市のぐるんとびーさんには7～8年ほど前、サードパスの大屋亜希子さんとご一緒させて頂き見学に伺ったことがある。

その時は介護について全く知識がなく、小規模多機能住宅という介護の形態があることや団地の一室を活用して介護施設を経営していること、職員の方も同じURの団地に居住していることなどを知った。事業を始めてもなかなか地域住民の理解を得ることが難しく、地元の方との関係性構築についての悩みを伺った。

介護施設は高齢者のための施設であると思っていたのが、実際に訪れてみるとぐるんとびーでは高齢者と小学生が同じ家族の一員のように談笑していたことが特に印象に残っている。

学びは正しさの先にある、と菅原講師は話された。

まさに、人に寄り添うことを学んだ医療・介護専門職の方の言葉だと思う。

その人らしさを常に考え寄り添う能力、個別の問題解決に向けて真摯に対応していく能力は驚くほど優れており、医療・福祉を身をもって学んだことのない事務職の私たちは、足元にも及ばないように感じている。

個別の対応力や寄り添いを数多く実践してきたからこそ、制度利用だけでは不十分な、本人の幸せに辿り着いた言葉ではないのだろうかと思う。

私たち事務職は、「正しい」仕組み作りや「正しい」制度の構築を第一に考えてしまう。持続化技術を第一に考えるようにトレーニングされてきた。

一方、医療・介護の専門職は個別の問題解決能力を徹底的にトレーニングされるのではなだろうか。その結果として「正しい」を固定化せず、その瞬間での最適解を更新し続けることができるのだろう。今回の菅原講師のご講演を拝聴して、私も「正しい」を固定化せずに、地域や本人のために逸脱するべきところは柔軟に考えても良いのではないかと思った。

勿論、バランスは非常に重要であるが、その人らしさを考え、寄り添うこととはどのようなことなのかについて考えながら拝聴させていただいた。今まではルール遵守、コンプライアンスは第一と考えていたが、それに縛られないことも重要であるとの気づきをいただきました。

ありがとうございました。

追伸ですが、先日は私どもの仕事の場、内田病院の「変人の会」にご出席して頂き、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。